

# with smile

スマサポ登録者数 1,160名を越えました!  
これから(も)よろしくお願ひします号

「スマイルアスリート」  
バトミントン

永原 和可那さん



特集

拾わないボランティア活動

2

事務局からのお知らせ

オリンピック・パラリンピック出場者からのメッセージ

## スマイルアスリート

ながはら わかな  
バドミントン 永原 和可那さん

## 最近の活動について

北海道芽室町出身の永原和可那です。現在は秋田県を拠点に活動しています。私は7歳からバドミントンを始め、現在25歳となり競技人生18年となりました。そして今年、東京2020オリンピックに出場することができましたが、悔しい結果で終わってしまいました。次のパリ五輪に向けて、再挑戦したいと思います。

## びっくりエピソード

様々な国で試合をさせていただいてきましたが、国によって雰囲気や観戦の仕方が全く違うことに驚きました。どう違うかというと、1番はお客さんの応援の仕方です。日本はどちらかというとマナーを大切にする国なので、ラリー中は声を出してはいけないというルールがあり、皆さん静かに観戦します。

それに比べて、海外ではそのようなルールがないので、ラリー中に羽を打つタイミングに合わせて「うーあー!!!」といったような掛け声や、ラリーが終わった後の盛り上がりがすごいです。特にインドネシアは圧倒的上がりがすごく、羽の音も聞こえないくらいです(笑)。

## ボランティアへの思い

私たちがいつも試合をできるのは、会場の設営や様々なサポートのおかげで成り立っています。会場練習の時に、隣でコートの準備を下さっている方や、ライトの確認、私たちが試合前に入場する所の設営など、様々なスタッフの方を目にしてきました。その度に「このボランティアの方々のおかげで今から試合ができるんだなあ。本当にありがたいことだ」と感じています。

コートに入れば私たちがスポットライトに当たり輝くことができますが、その裏側で沢山の人がサポートしてくれていることを忘れてはいけません。ボランティアの方々も私から見たらとても輝いています。いつも本当にありがとうございます。

アスリートからの  
挑戦状

私の名前(フルネーム)には「ある特徴」があります。それは一体なんでしょう？  
(ヒント:ローマ字にしてみると…)

※解答は3ページ下にあります





特集

# 拾わないボランティア

スポーツボランティアの活動の1つである、イベント終了後の「ごみ拾い」。例年夏に開催される北海道マラソンでは、2016年の「クリーン宣言」以降、給水エリアやコース上に散乱した大量の紙コップを素早く回収し、清掃を終了させるための専門スタッフが配置されたほか、ごみ箱の増設や「紙コップはごみ箱へ」というランナーへの呼び掛けが行われています。

マラソン大会やプロスポーツの試合に限らず、町内会のお祭りや野外音楽フェスティバルなど、人が多く集まる場所では大量のごみが発生します。残念ながら、その全てがごみ箱に捨てられていないのが現状で、その都度ボランティアの皆さんが場内外に散乱したごみを拾い、綺麗な状態に戻してくれています。しかしこのごみ拾いボランティア、「持続可能（サステナブル）」ですか？

## 拾わないボランティア

1994年、NPO法人 iPledge（羽仁カンタ代表）は、大規模音楽フェスティバルや自治体主催の環境イベントなどを中心に、高校生から若手社会人までが参加する「ごみゼロナビゲーション」というプロジェクトを始めました。その活動は徹底的に「ごみを拾わない」こと。では彼らは一体何を行っているのでしょうか。

まず、企業広告付きのオリジナルごみ袋を配布して、「ごみをポイ捨てさせない」活動。次に、使い捨てではなく洗って繰り返し利用できる「再使用食器（リユース食器）」を提供することで「ごみを出さない」。さらに、ごみステーションの後ろに立って「ごみの適切な分別を促す」活動も行っています。このように、「ごみゼロナビゲーション」では、ボランティアがごみを拾うのではなく、来場者がごみの削減に参加できるような手助けすることを目的としています。

## 北海道でも拾わない

「ごみゼロナビゲーション」（NPO法人 iPledge）以外に、北海道でも「拾わないボランティア」が広がっ

ています。石狩市で毎年開催される野外音楽イベントでは、NPO法人 ezorock（エゾロック）がごみの分別ボランティアを続けています。また、生ごみの循環について来場者に伝えるべく、イベントで廃棄された生ごみの一部を堆肥に変えて育てたじゃがいもを、翌年の同イベントで無料配布する活動も行われています。

## 音楽とスポーツ

現在、イベント来場者にごみの削減について意識してもらうためのボランティア活動は、音楽イベントが中心となっています。一方、国内スポーツイベントではサッカーの試合会場での活動のほか、ごみ拾い自体をスポーツとして競い合う「スポーツごみ拾い」がありますが、音楽イベントほどは普及していないようです。しかし、スポーツも「拾わないボランティア」との相性は良いはずなのです。というのも、一見別物に感じられる音楽とスポーツですが、両者は意外にも「似た者同士」だからです。

音楽にはスポーツと同様に多くの人を熱狂させ、一致団結させる力があります。ライブコンサートや演奏会での生の音楽を聴く体験や、人とつながり、アーティストと観客が1つの空間を共有する高揚感は、テレビ越しの中継や録音音源では体験できないものです。これらはまさにスポーツと通じる点で、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の無観客開催が決定された時は、多くのスポーツファンやボランティア参加予定者が肩を落としました。音楽とスポーツは、心身ともにこれだけ人を動かすことのできる牽引力を持っているのだから、世界中の音楽ファン、スポーツファンがもっと環境問題に参加していけば、問題解決への大きなエネルギーが生まれるかもしれません。

放っておけば増え続けるごみを延々と拾い続けることは、持続可能とは言えません。終わりのない「ごみ拾いボランティア」を無くすためにも、これからは「拾わないボランティア」活動がスポーツの場においても広がることを期待されます。

### 3 事務局よりお知らせ

#### 今後の活動予定



10月1日、北海道の緊急事態宣言が解除となりました。これにより学校での部活動や公共施設の再開など、生活に身近なさまざまな場面での制限が緩和されました。

スマイル・サポーターズ事務局は、各イベントの実施状況に加え、札幌市と北海道の感染状況を踏まえた上で、スマサポの派遣再開について慎重に検討しております。活動再開が決定し次第、別途ご連絡いたしますので引き続きご理解、ご協力をお願い申し上げます。

ランニングを楽しもう！

**RUN BASE SAPPORO in 札幌エクセルホテル東急**  
10月2日（土）～令和4年3月31日（木）10:00-20:00



札幌にランナーズステーション「RUN BASE SAPPORO」が10月2日（土）にオープンしました。札幌中心部で働く人が仕事終わりに気軽にランニングができるよう、ランナーズステーション RUN BASE SAPPORO では、シューズやランニングウェアの貸し出しを行っており、シャワーとロッカーも完備。

また、ランニング後にカフェスペースでゆっくりしたり、酸素カプセルで疲れた体を回復できたりと、まさにランナーが楽しめる空間。ランニングアドバイザーが常駐しているので初心者でも安心です。通常、施設利用料が500円のところ、今月24日まで無料。ぜひお気軽に遊びに来て下さい！

お問合せはこちら

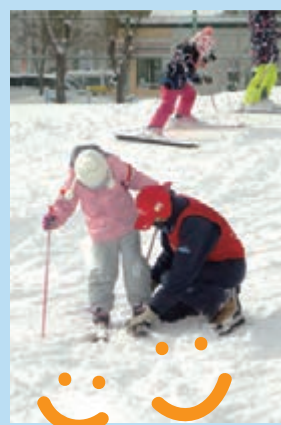
☎ 011-600-1870

E-mail:support@runbase-sapporo.com

今年もやります！バージョンアップしてやります！

#### 小学校スキー学習支援ボランティア

さっぽろグローバルスポーツコミッションでは昨年度に引き続き、小学校スキー学習支援ボランティアへの派遣を計画しています。昨年度は4校だった派遣先を、今年は札幌市内の全区にまで拡大し、約50校におけるグラウンドでのボランティア活動を予定しています。

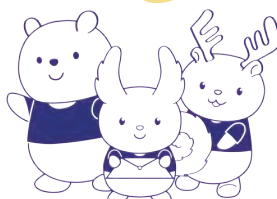


今年度の小学校スキー学習支援ボランティアでは、活動内容や必要なスキー技術、当日の開催有無、従事する学年などについて迅速な情報共有を行うため、スマサポと学校が直接連絡を取り合えるシステムを検討中です。

そこで、今年度の小学校スキー学習支援ボランティアの準備段階として、スマサポの皆さまに意思確認調査を実施いたします。スキー学習支援ボランティアへの参加意欲や活動希望地域についてお聞きする予定です。調査はインターネットの調査形式「Google フォーム」の使用を予定しておりますが、インターネット環境のない場合は調査用紙を送付いたします。調査へのご参加・ご協力をお願いいたします。



今月に入って気温が徐々に下がり、スポーツがしやすい季節となったと同時に、体調を崩しやすい時期となってきました。美味しい秋の味覚と適度な運動で、免疫力をつけていきましょう！引き続き新型コロナウイルスへの対策もお忘れなく。



spovol@sgsc.jp  
Fax 011-200-0314

さっぽろグローバルスポーツコミッション  
011-200-0905